



## 日本 BS 放送株式会社

2025 年 8 月期 決算説明会

2025 年 10 月 22 日 16 時～17 時 開催

[登壇者] 代表取締役社長 近藤 和行

取締役 松友大輔

# 日本BS放送株式会社

## 2025年8月期 決算説明会

2025年10月22日



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

**山本**：皆様、こんにちは。本日は日本 BS 放送株式会社 Web 説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まずはじめに、本日の出席者をご紹介します。代表取締役社長、近藤和行でございます。経営企画局 担当取締役、松友大輔でございます。

それではこれより決算説明へ移らせていただきます。近藤社長、よろしく申し上げます。

I	会社概要・事業内容	P3
II	2025年8月期 決算業績	P11
III	2026年8月期 計画(連結・個別)	P18
IV	重点施策・主な取組み	P21
V	株主還元	P28

**近藤**：本日は、日本BS放送株式会社、2025年8月期の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。代表取締役社長の近藤です。

本日は、ご覧いただいておりますスライドの項目に沿ってお話をさせていただきます。

## 会社概要

BS11日本BS放送

2027年に開局20周年を迎える、全国無料のBSテレビ局です。

会社概要	
本社	東京都千代田区神田駿河台二丁目5番地
事業内容	全国無料のBSハイビジョン放送“BS11”チャンネルの運営
代表者	代表取締役会長 齋藤 知久 代表取締役社長 近藤 和行
設立	1999年8月
資本金	41億9千万円（2025年8月31日現在）
従業員数	128名(連結)（2025年8月31日現在）

沿革	
1999年8月	株式会社ビックカメラにより、衛星放送の番組及び普及に関する調査研究を目的として設立
2000年12月	BSデジタルデータ放送開始
2007年12月	BSデジタルハイビジョン放送(BS11)開始
2010年4月	一般社団法人日本民間放送連盟に入会
2014年3月	東京証券取引所市場第2部へ上場
2015年3月	東京証券取引所市場第1部へ上場
2018年1月	理論社・国土社の株式を100%取得し完全子会社化
2022年4月	東京証券取引所スタンダード市場へ移行



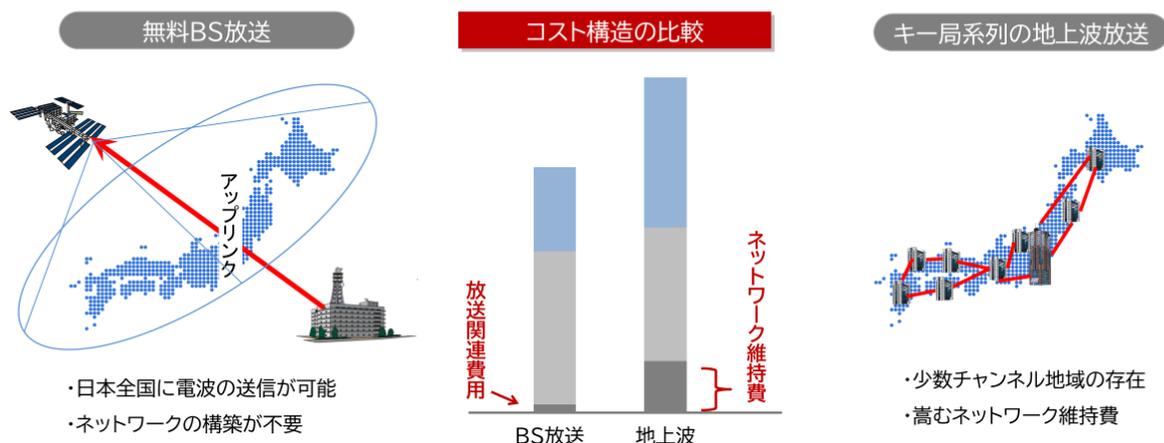
© Nippon BS Broadcasting Corporation.

3

まずは会社の基本情報について、ご説明いたします。

当社は1999年に設立された全国無料放送のBSテレビ局です。2007年から衛星放送を開始し、現在は東京証券取引所スタンダード市場に所属しております。

✓ 地上波放送とコスト構造が異なり、全国一斉、低コストで放送可能



世帯普及率  
77.1%\*

全国放送

専念視聴

低コスト  
放送

\*2019年6月・12月「BS民放6社・ビデオリサーチ調査」2回分の平均値

BS放送は、地上から映像データを宇宙の衛星に送り、その衛星から出た電波を各家庭のパラボラアンテナを経由させることで、番組をお届けしております。

BSの普及率は、2020年の調査時点で、全世帯の7割超となっております。

BS放送は、地上波放送と比較すると、電波塔などのネットワーク維持費用がかからないため、より低いコストで効率よく放送できるのが特徴です。

### BS11の強み・特長

- ①家電量販店**ビックカメラ**を親会社に持つため、番組・CMの放送等に加えて、**消費者へのダイレクトなコンタクトポイントが持てる！**
- ②独立系だからこそ**自由なコンテンツ制作・展開**が可能！
- ③『**ドラマ**』・『**アニメ**』・『**競馬**』など多岐にわたるラインアップ編成により、**幅広い年齢の視聴者層**が存在！

ここで、まず当社の強みについてご説明いたします。

一つ目は、ビックカメラグループの一員で、その店舗網を活用し、消費者への直接的なコンタクトポイントを持っていることが、他の地上波系BS局に比べて大きな強みとなっております。

つまり、クライアントに対して、通常の番組企画やCM放送だけではなく、ビックカメラやコジマ、ソフマップなど、全国のグループの店舗網を活用し、消費者に直接、商品内容あるいは企業のブランドイメージを訴求することなどを絡めた企画あるいは提案が可能だということです。

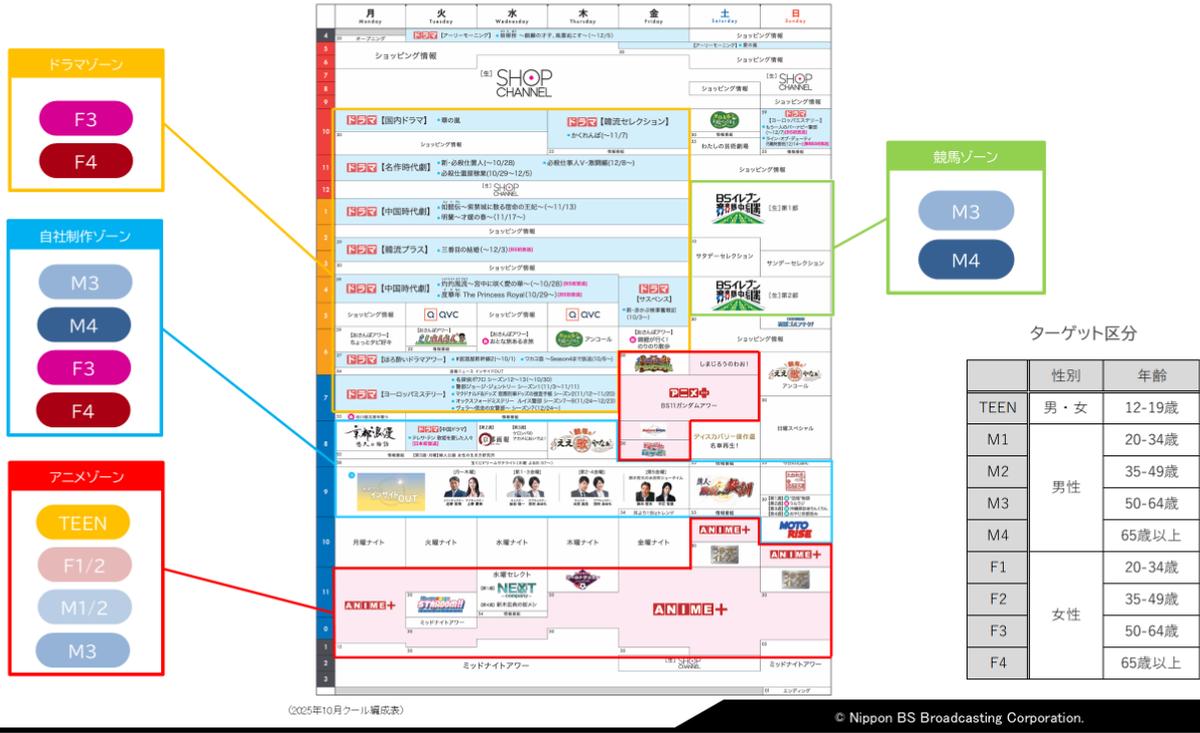
二つ目は、キー局系列に属さない独立放送局だからこそ、自由なコンテンツの制作・展開が可能になっています。系列の枠組みにとらわれることなく、視聴者の嗜好に沿った番組を自由に編成できます。局の垣根を越えた連携による他局との番組の共同制作など、柔軟なコンテンツ制作も可能です。

三つ目は、ドラマやアニメ、競馬など、多彩なラインアップの編成により、幅広い年齢層からの支持を得ています。

# タイムテーブル

BS11 日本BS放送

BS11では曜日・時間帯ごとに視聴者ニーズに応える編成を実施  
そのため、他民放BS局と比較しても幅広い年齢の視聴者層が存在する



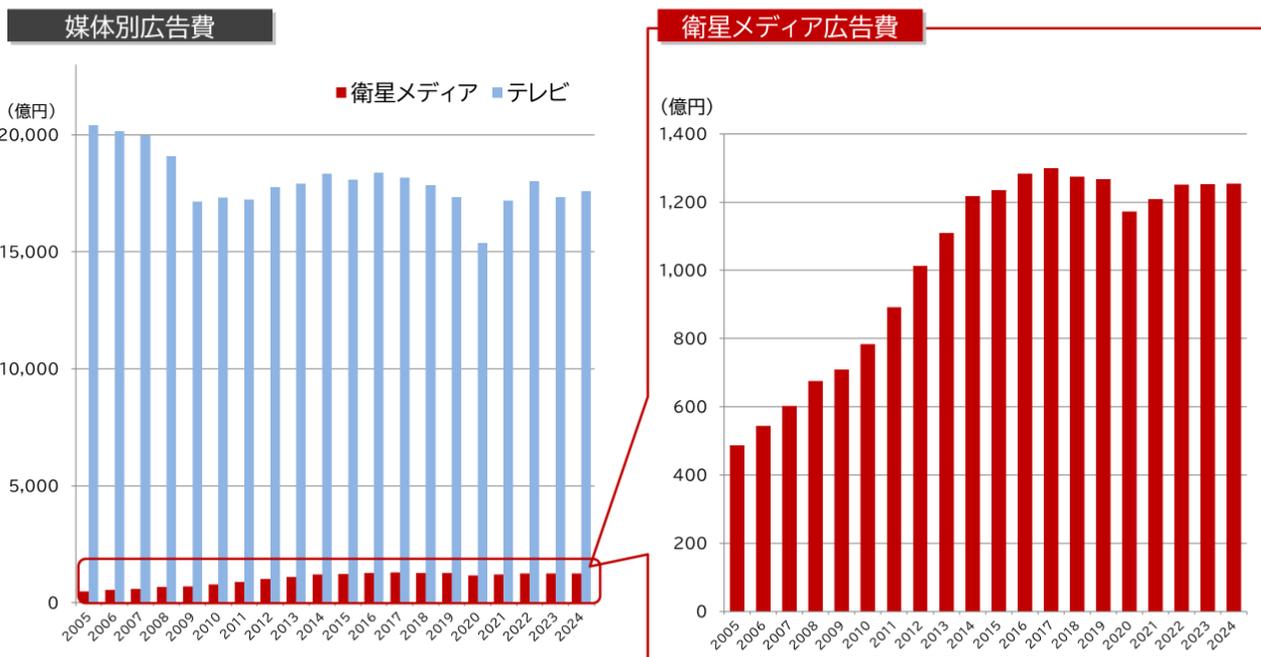
具体的には、10月クールのタイムテーブルでご説明いたします。

平日の日中帯には、主に中高年の女性層をメインターゲットに、中国時代劇、あるいは韓国ドラマなどのドラマゾーンを編成しております。一方、土日の日中帯は、中高年の男性層を想定して、競馬の生中継を編成しております。ゴールデン帯、プライム帯と言われる夜の時間帯ですけれども、これは自社制作の報道番組、あるいは紀行番組を編成し、深夜には業界トップクラスの良質なアニメコンテンツを放送しています。それぞれの時間帯に合った番組を編成することで、幅広い層の視聴者に多彩な情報をお届けし、好評を得ています。個々の番組の内容については、説明の最後にVTRを作っておりますので、そちらで紹介いたします。

今、お話しした当社の三つの強みですが、ビックカメラグループだからこその企画や提案、コンテンツの自由な制作と編成、ドラマや競馬、アニメといった支持の厚い多彩な番組

以上、三つの強みのもと、多くのクライアントや視聴者の皆様からご支持をいただき、信頼されるテレビ局へと成長してまいりました。

2020年のコロナ禍を経て2021年以降は回復傾向

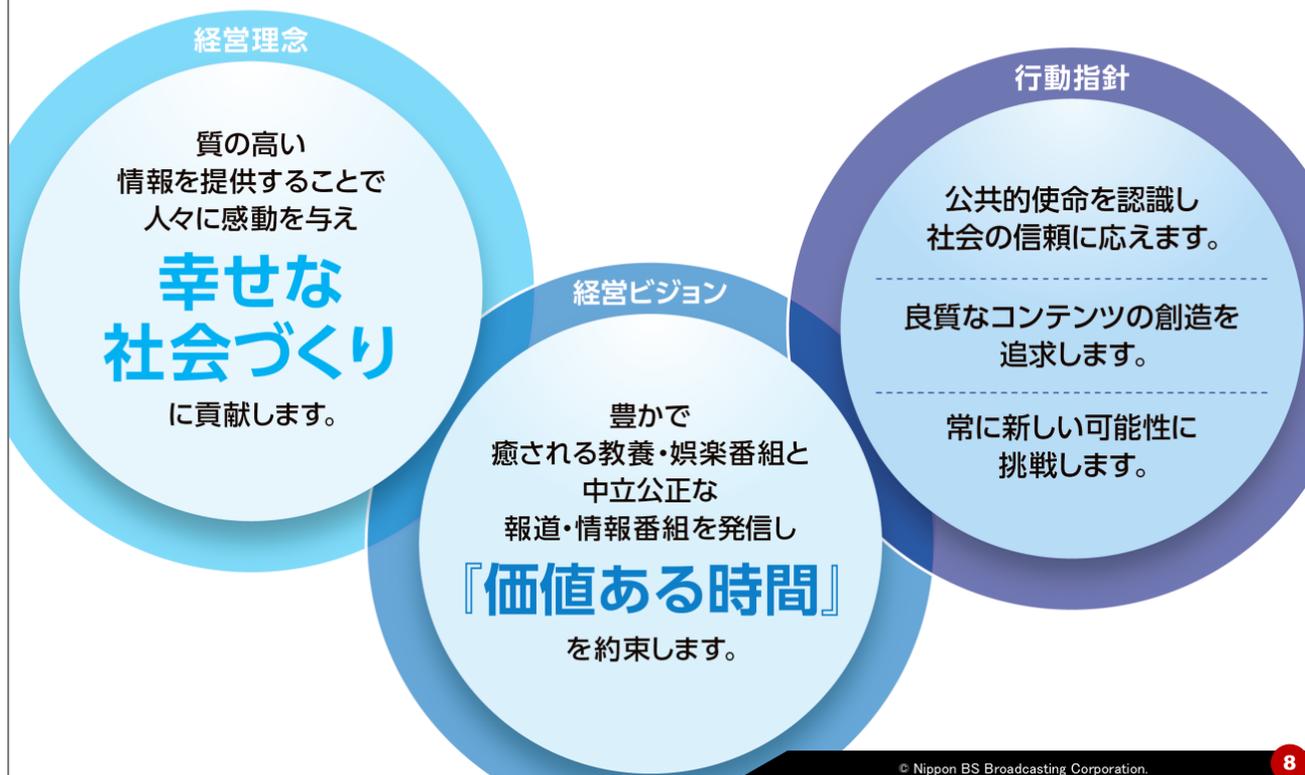


(出所)電通「2024年 日本の広告費」※ 衛星メディアにはBS放送、CS放送、ケーブルテレビが含まれる

市場環境について説明します。

ご覧の左の青いグラフは、テレビ広告全体の市場推移です。これに対して、右側の赤いグラフが、私どものBSにCSを加えた衛星メディア全体の広告費の推移です。

ご覧いただくと、新型コロナウイルスが発生した2020年は、地上波・衛星放送ともに市況が大きく落ち込みましたが、2021年以降は回復傾向をたどっており、多くのクライアントに支持をいただいております。



当社の経営理念をご紹介します。

「質の高い情報を提供することで、人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します。」これを経営理念に、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」という経営ビジョンのもと、番組の制作や放送を行っています。

当社は、公共の電波を扱う企業として、皆様に正しく正確な情報や、わくわくするような番組をお届けしています。

理論社・国土社との取組み

グループ会社となっている(株)理論社・(株)国土社と協業し、映像コンテンツを制作、放送や配信を積極的に実施。

株式会社理論社

1947年創業 書籍・雑誌等の編集、制作、出版及び販売



↑図書館員がえらぶ 選書センター大賞2024 大賞 総合第1位

株式会社国土社

1937年創業 主に児童図書・教育図書の刊行



第70回青少年読書感想文全国コンクール 小学校高学年の部 課題図書

協業制作コンテンツ(一部抜粋)



連結子会社についても説明しておきましょう。

我がグループには、児童書や教育図書を中心とした書籍の出版を行っている2社、つまり株式会社理論社と株式会社国土社の2社があります。

両社は、2024年夏の課題図書、つまり平たく言うと推薦図書に選出されるなど、児童書籍の分野で確かな実績を積み上げています。

現在、BS11は、この両社の著作権等のIPを活かした良質な映像コンテンツの制作を積極的に推進しております。

2025年8月期の業績につきましては、経営企画局担当取締役の松友より説明いたします。

2025年8月期 総括（個別）

売上高

11,039百万円（前期比 2.8%減 ↓）

営業利益

1,988百万円（前期比 3.4%減 ↓）

	2024年 8月期	2025年8月期						
		実績	前期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因（前期比）
売上高	11,357 (100.0%)	11,039 (100.0%)	△2.8%	△318	11,600 (100.0%)	△4.8%	△560	・タイム収入・・・△107百万円 ・スポット収入・・・△231百万円
売上総利益	5,354 (47.1%)	5,311 (48.1%)	△0.8%	△42	—	—		（段階利益） ・売上高の減収 ・売上原価の減少 ・販管費の増加
営業利益	2,057 (18.1%)	1,988 (18.0%)	△3.4%	△68	2,000 (17.2%)	△0.6%	△11	【売上原価】 ・前年放送のレギュラー番組等にかかる 費用の反動減 ・アニメ作品の放送月変更による費用の 期ズレ ・2022年10月～2023年4月にかけて実施 したスタジオ設備更新に伴う償却負担 の軽減
経常利益	2,073 (18.3%)	2,043 (18.5%)	△1.4%	△29	2,029 (17.5%)	0.7%	13	【販管費】 ・局認知・番組認知拡大に向けた宣伝 施策の強化
当期純利益	1,432 (12.6%)	1,413 (12.8%)	△1.3%	△18	1,406 (12.1%)	0.5%	6	

松友：まず、個別業績について説明いたします。

売上高は110億3,900万円。前期比3億1,800万円の減収。計画に対しては5億6,000万円の未達でございました。

営業利益は19億8,800万円。前期比6,800万円の減益でしたが、計画はおおむね達成することができました。

売上高は、配信事業の好調を受けて、その他収入は増加いたしました。通販スポットの市況低迷の影響でスポット収入が伸び悩み、放送収入は減収となりました。

営業利益は、番組編成の見直し、一部不採算番組を終了させるなどのコスト管理の徹底、2023年4月に実施し、利益を圧迫していたスタジオ設備の更新に伴う償却負担の軽減等々もございました。当初の利益計画はおおむね達成することができました。

## 売上区分別実績（個別）

	2024年8月期	2025年8月期				
		実績	増減額	前期比	計画	計画比
売上高	11,357 (100.0%)	11,039 (100.0%)	△318	△2.8%	11,600 (100.0%)	△4.8%
タイム収入	8,262 (72.7%)	8,155 (73.9%)	△107	△1.3%	8,359 (72.1%)	△2.4%
スポット収入	2,269 (20.0%)	2,038 (18.5%)	△231	△10.2%	2,357 (20.3%)	△13.5%
その他	825 (7.3%)	845 (7.6%)	20	2.4%	883 (7.6%)	△4.3%

### 主な増減要因（前期比）

- タイム収入  
前期放送の大型スポーツ特番の減少による反動等がある中、公営競技や持込番組のセールスが好調に推移し、前期比△1.3%
- スポット収入  
日中帯を中心としたドラマコンテンツの編成戦略強化により復調の気配があるものの、前期比△10.2%
- その他  
前年好調だったアニメ製作委員会の出資配当収入の反動減があったものの、配信事業収入等が好調に推移したことで、前期比+2.4%

売上高および主要な費用項目の詳細についてご説明いたします。

まず、売上高です。

タイム収入は、公営競技などのセールスが好調で、前期とほぼ同額の 81 億 5,500 万円となりました。

スポット収入は、市況低迷の逆風を受け、20 億 3,800 万円と伸び悩みました。ただし、4 月改編から日中帯を中心にスポット出稿の受け皿となっているドラマコンテンツの編成戦略ならびに調達行動を強化したことで、現在は復調傾向にあります。

その他収入は、今後の成長エンジンである配信事業が好調に推移したほか、イベント事業や通販事業など新たな収益源に注力した結果、前期比 2.4% 増の 8 億 4,500 万円まで伸ばすことができました。

## 主要費用項目実績（個別）

	2024年8月期	2025年8月期			（単位：百万円、下段は売上比） 主要な増減要因
		実績	前期比	前年増減額	
番組関連費用（原価）	3,855 (33.9%)	3,724 (33.7%)	△3.4%	△130	
番組購入費	361 (3.2%)	406 (3.7%)	12.5%	45	日中帯を中心としたドラマコンテンツの編成戦略強化に伴う費用増
番組制作費	3,493 (30.7%)	3,317 (30.1%)	△5.0%	△175	前年放送の番組にかかる費用の反動減、アニメ作品の放送月変更による費用の期ズレ
放送関連費用（原価）	547 (4.8%)	550 (5.0%)	0.5%	2	
放送委託費	497 (4.4%)	487 (4.4%)	△2.0%	△10	
技術費	49 (0.4%)	62 (0.6%)	25.5%	12	
広告関連費用（販管費）	706 (6.2%)	734 (6.7%)	4.0%	28	
広告宣伝費	662 (5.8%)	690 (6.3%)	4.2%	28	局認知・番組認知拡大に向けた宣伝施策の強化
販売促進費	43 (0.4%)	43 (0.4%)	-	-	

続いて、費用についてです。

番組関連費用は37億2,400万円で、前期比3.4%減少いたしました。

タイムテーブルの戦略的な強化のため、日中帯のドラマコンテンツに重点投資したことで、番組購入費が前期比12.5%増えました。

一方、番組制作費は、番組の構成を見直し、一部の自社制作番組の放送を終了したことで、前期比5.0%圧縮することができました。

衛星利用料を含む放送関連費用は5億5,000万円で、前期比0.5%増加しました。

広告関連費用は7億3,400万円。下期にかけて、局認知や番組PRをはじめとした宣伝活動を強化したことで、前期比4.0%増加しました。

## 貸借対照表の概要（個別）

		2024年8月期末	2025年8月期		
			実績	前年増減額	主な増減要因
流動資産	流動資産	16,553 (65.1%)	16,725 (63.3%)	172	・現金及び現金同等物の減少 △122百万円 ・有価証券の増加 +299百万円
	固定資産	8,858 (34.9%)	9,681 (36.7%)	823	・投資有価証券の増加 +1,200百万円 ・機械装置減価償却累計額の増加 △312百万円
資産合計		25,412 (100.0%)	26,407 (100.0%)	995	
流動負債	流動負債	1,815 (7.1%)	1,912 (7.2%)	97	・買掛金の増加 +127百万円 ・未払法人税等の減少 △14百万円 ・未払費用の減少 △6百万円
	固定負債	125 (0.5%)	128 (0.5%)	2	
負債合計		1,941 (7.6%)	2,040 (7.7%)	99	
純資産合計		23,471 (92.4%)	24,366 (92.3%)	895	・利益剰余金の増加 +879百万円
負債・純資産合計		25,412 (100.0%)	26,407 (100.0%)	995	

個別の貸借対照表はご覧のとおりです。

資産合計は 264 億 700 万円。

純資産合計は、利益剰余金の計上で、243 億 6,600 万円となりました。

2025年8月期 総括（連結）

売上高

11,812百万円（前期比 3.5%減 ↓）

営業利益

1,932百万円（前期比 7.3%減 ↓）

	2024年 8月期	2025年8月期						
		実績	前期比	増減額	計画	計画比	増減額	主な変動要因（前期比）
売上高	12,241 (100.0%)	11,812 (100.0%)	△3.5%	△428	12,314 (100.0%)	△4.1%	△501	
売上総利益	5,772 (47.2%)	5,628 (47.6%)	△2.5%	△143	—	—	—	(売上高) ・放送事業収入… △338百万円
営業利益	2,083 (17.0%)	1,932 (16.4%)	△7.3%	△151	2,004 (16.3%)	△3.6%	△71	・その他収入… +20百万円 ・その他収入(子会社)… △110百万円
経常利益	2,097 (17.1%)	1,985 (16.8%)	△5.3%	△112	2,032 (16.5%)	△2.3%	△46	(売上原価) ・番組制作費… △175百万円 ・減価償却費… △134百万円
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,455 (11.9%)	1,345 (11.4%)	△7.6%	△110	1,407 (11.4%)	△4.4%	△61	

連結業績について説明いたします。

理論社・国土社の二つの子会社は、先期にあたる2024年8月期に、それぞれの出版物が課題図書に選ばれるという追い風があったことで、好調な業績でございました。

一方で、今期2025年8月期においては、課題図書の選出作品がなかったことに加え、前年の課題図書の返品が始まったということもございまして、売上が減少し、赤字幅が拡大いたしました。

結果として、連結の減益幅は、個別の3.4%から7.3%へと悪化することになりました。

# 貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

貸借対照表		(単位:百万円、下段は構成比)		キャッシュ・フロー計算書		(単位:百万円)	
		2024年8月期末	2025年8月期			2024年8月期	2025年8月期
			期末	前年増減額			
流動資産		17,041 (65.8%)	17,223 (64.0%)	181	営業キャッシュ・フロー	2,468	1,828
	固定資産	8,852 (34.2%)	9,675 (36.0%)	822	税金等調整前当期純利益	2,097	1,985
資産合計		25,894 (100.0%)	26,898 (100.0%)	1,003	減価償却費	606	473
流動負債		2,166 (8.4%)	2,342 (8.7%)	175	売上債権の増減額(▲は増加)	94	40
	固定負債	128 (0.5%)	129 (0.5%)	0	仕入債権の増減額(▲は減少)	96	130
負債合計		2,295 (8.9%)	2,472 (9.2%)	176	未払金の増減額(▲は減少)	△153	28
純資産合計		23,598 (91.1%)	24,426 (90.8%)	827	未払い消費税等の増減額(▲は減少)	207	△122
負債・純資産合計		25,894 (100.0%)	26,898 (100.0%)	1,003	法人税等の支払額	△550	△681
					投資キャッシュ・フロー	△9,351	△4,536
					定期預金の預入による支出	△8,000	△3,000
					有形固定資産の取得による支出	△32	△28
					投資有価証券の取得による支出	△1,309	△1,498
					財務キャッシュ・フロー	△564	△455
					短期借入れによる収入	-	140
					短期借入金の返済による支出	△100	△60
					配当金の支払額	△462	△534
					現金及び現金同等物の増減額	△7,447	△3,163
					現金及び現金同等物の期首残高	13,599	6,152
					現金及び現金同等物の期末残高	6,152	2,988

連結の貸借対照表はご覧のとおりです。

キャッシュ・フローの状況について説明いたします。

営業キャッシュ・フローは、当期純利益が順調に積み上がり、18億2,800万円のキャッシュ・インとなりました。

投資キャッシュ・フローは、45億3,600万円のキャッシュ・アウトとなりました。金利上昇による現預金の価値の目減りを抑えるために、投資有価証券の取得が14億9,800万円、そのほか定期預金への預け替えが30億円ありました。

財務キャッシュ・フローは、通常の配当金の支払いによるもので、4億5,500万円のキャッシュ・アウトとなりました。

期末残高における現金及び現金同等物の額が大きく減少しているのは、これらによるものです。

売上高は12,576百万円(前期比6.5%増)、営業利益は1,804百万円(前期比6.6%減)、  
親会社株主に帰属する当期純利益は1,306百万円(前期比2.9%減)を計画

(単位:百万円、下段は売上比)

	2025年8月期		2026年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			計画	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,889 (100.0%)	11,812 (100.0%)	6,079 (100.0%)	3.2%	12,576 (100.0%)	6.5%	763
営業利益	1,159 (19.7%)	1,932 (16.4%)	830 (13.7%)	△28.4%	1,804 (14.3%)	△6.6%	△128
経常利益	1,174 (19.9%)	1,985 (16.8%)	858 (14.1%)	△26.9%	1,888 (15.0%)	△4.9%	△97
親会社株主に帰属 する当期純利益	801 (13.6%)	1,345 (11.4%)	576 (9.5%)	△28.2%	1,306 (10.4%)	△2.9%	△39

© Nippon BS Broadcasting Corporation.

18

続きまして、2026年8月期通期計画について説明いたします。

まず、連結の通期計画について説明いたします。

今期は、放送収入の回復と、IPコンテンツやアニメへの投資拡大による売上増を見込み、売上高は125億7,600万円、前期比6.5%増と、大幅増を目指します。

一方、営業利益は、IPコンテンツやアニメへの投資拡大に一段と踏み込むことで18億400万円、前期比6.6%減と一時的に落ち込みますが、これらの投資が今後のさらなる業績拡大への布石になると考えております。

経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はご覧のとおりでございます。

## 2026年8月期 通期計画（個別）

売上高は11,800百万円(前期比6.9%増)、営業利益は1,800百万円(前期比9.5%減)、  
当期純利益は1,305百万円を計画(前期比7.7%減)

(単位:百万円、下段は売上比)

	2025年8月期		2026年8月期				
	第2四半期 累計	通期	第2四半期累計		通期計画		
			計画	前期比	計画	前期比	増減額
売上高	5,534 (100.0%)	11,039 (100.0%)	5,751 (100.0%)	3.9%	11,800 (100.0%)	6.9%	760
タイム収入	4,010 (72.5%)	8,155 (73.9%)	4,091 (71.2%)	2.0%	8,358 (70.9%)	2.5%	203
スポット収入	1,109 (20.1%)	2,038 (18.5%)	1,139 (19.8%)	2.6%	2,186 (18.5%)	7.3%	148
その他	413 (7.5%)	845 (7.6%)	520 (9.0%)	25.8%	1,254 (10.6%)	48.3%	408
営業利益	1,192 (21.6%)	1,988 (18.0%)	888 (15.5%)	△25.5%	1,800 (15.3%)	△9.5%	△188
経常利益	1,208 (21.8%)	2,043 (18.5%)	914 (15.9%)	△24.3%	1,886 (16.0%)	△7.7%	△157
当期純利益	836 (15.1%)	1,413 (12.8%)	632 (11.0%)	△24.3%	1,305 (11.1%)	△7.7%	△108

個別の通期計画については、ご覧のとおりです。

以上、決算業績と通期計画についてご説明いたしました。

Value

## I. 放送事業収入の最大化

タイムテーブルの戦略的強化、視聴者ニーズの分析徹底

Value

## II. 独自IPコンテンツの開発加速

IPの積極活用による多面的な事業展開、コラボレーション施策の推進

Value

## III. アニメビジネスの収益基盤拡充

良質なアニメコンテンツの確保、新規事業の推進

Value

## IV. 企業価値向上のための戦略的投資

新たな領域への投資機会の追求、持続的成長を実現する環境構築

近藤：それでは、重点施策および主な取組みについて説明いたします。

まずは重点施策についてです。

放送業界は、現在大きな変革の波の中にあって、将来にわたる収益源の強化が急務になっています。アニメやコンテンツの強化に積極的に取り組む方向へと舵を切り、今期はコンテンツを中心とした積極投資、それに向けて一段とアクセルを踏み込む1年にしたいと考えております。

具体的に言いますと、今期は、重点施策「Value 4」として、ご覧の4つを掲げます。

順にご説明いたします。

Value

# I. 放送事業収入の最大化

タイムテーブルの戦略的強化、視聴者ニーズの分析徹底

- 当社看板番組の内容強化を行い、「視聴者に選ばれる局」になる



『報道ライブ インサイドOUT』

新メインキャスターに近野宏明さんを迎え、番組コンセプトやスタジオセットを一新。



音楽



園芸

- タイムテーブル全体の分析を強化し、コンテンツへの反映サイクルを迅速化する

中国時代劇



BS初放送

© 2024 Telecommunication Technology (Beijing) Co., Ltd. All Rights Reserved.

韓国ドラマ



BS初放送

©2023-2024MBC

国内ドラマ



GETT

ヨーロッパミステリー



©Company A Channel

- 話題性のあるコンテンツも積極編成



日本初放送

© HS Entertainment Group Incorporated

アジアの歌姫テレサ・テンの人生をモデルにした、日本初放送の中国ドラマ。



©ASKTV/NET

時代劇の金字塔「必殺シリーズ」における屈指の名作『新・必殺仕置人』を放送。

まず最初は、放送事業収入の最大化です。

放送事業は、売上の9割を占める大きな柱として我が社を支えているものですが、このベースの拡大にしっかりと取り組みたいです。タイムテーブルの一層の価値の向上、コンテンツの調達強化、PRの強化といったことに取り組んできました。その効果で視聴率が好調に推移していることから、引き続きドラマコンテンツの強化を推進して、売上げに結びつけていきたいと考えています。

一つ例を挙げると、当社の看板番組『報道ライブ インサイド OUT』は、10月から元日本テレビの近野宏明さんをメインキャスターに迎え、内容を刷新しました。メインキャスターが25歳も若返ったことで、フレッシュな魅力とともに、引き続き放送が果たすべき中立公正で正確な報道を心がけていきたいと考えております。

Value

# I. 放送事業収入の最大化

タイムテーブルの戦略的強化、視聴者ニーズの分析徹底

- 当社看板番組の内容強化を行い、「視聴者に選ばれる局」になる



『報道ライブ インサイドOUT』  
新メインキャスターに近野宏明さんを迎え、番組コンセプトやスタジオセットを一新。



- タイムテーブル全体の分析を強化し、コンテンツへの反映サイクルを迅速化する

中国時代劇



BS初放送

© 2024 Yixun Information Technology (Beijing) Co., Ltd. All Rights Reserved.

韓国ドラマ



BS初放送

© 2023-2024 NBC

国内ドラマ



© 2021

ヨーロッパミステリー



© Company A Channel

- 話題性のあるコンテンツも積極編成



日本初放送

© HS Entertainment Group Incorporated

アジアの歌姫テレサ・テンの人生をモデルにした、日本初放送の中国ドラマ。



© BSCTV/BS11

時代劇の金字塔「必殺シリーズ」における屈指の名作『新・必殺仕置人』を放送。

また、多くの視聴者に好評を得ている当社イチオシの番組『鶴瓶のええ歌やなあ』や『黒谷友香、お庭づくります』につきましても、より愛される番組へと一段と内容の強化に取り組んでおり、放送収入のいっそうの拡大に向け、2026年8月期も積極的に取り組んでまいります。

## Value II. 独自IPコンテンツの開発加速

IPの積極活用による多面的な事業展開、コラボレーション施策の推進

● 放送のみならず配信やイベント、商品化など多面的に展開出来るコンテンツの開発を一層推進

《当社自社制作番組(一部抜粋)》



● メディアを超えたコラボレーション施策の実現



『うらラジ supported by TOKYO FM』



『谷川俊太郎を歌う』

● 配信

・番組放送後の各配信サイトでの見逃し配信



・放送番組を派生させた配信オリジナルコンテンツの制作・配信



● イベント

・番組派生イベント、公開収録、他社イベントへの出展



● 商品化

・番組オリジナルグッズの企画・販売



二つ目は、独自 IP コンテンツの開発加速です。

現在は、デジタル技術やデバイスが発達して、時間や場所に関係なく、興味や関心に応じていろいろなコンテンツを個人が楽しめるようになってきました。これまでのように、番組をテレビで放送するだけでは、視聴者に十分リーチすることが難しくなっています。

経営環境が変化する中、放送のみならず、配信やイベント、商品化など、多角的にコンテンツを展開することで、その価値を最大化することが重要な経営課題になっています。

当社も、放送番組の見逃し配信や、オリジナルオンデマンドサイト「BS11<sup>プラス</sup>」、自社通販サイト「BS11SHOP」、また「BS11SHOP 産直通販」など、放送コンテンツをマルチに展開するための基盤を広げております。

企画や制作段階から、著作権など各種の知的財産を意識したコンテンツを作り、それを積み上げ、展開していくことで、将来への飛躍へとつなげていく考えです。

## Value Ⅲ. アニメビジネスの収益基盤拡充

良質なアニメコンテンツの確保、新規事業の推進

- 作品選定の精度向上により、毎クール約40タイトルの良質なアニメ関連番組を放送



- “アニメのBS11”としての認知拡大に向けた取組み
- 更なる成長に向けた取組み



イベントの主催に加え、全国各地のアニメ関連イベントへの出展・協賛を推進していくことで、“アニメのBS11”としての認知を拡大へ。



BS11 × コトビヤくじ  
『日々は過ぎれど飯うまし』オンラインくじ

当社初の試みとして、当社にて放送したアニメ作品『日々は過ぎれど飯うまし』のオンラインくじを株式会社壽屋との協業により実施。

中長期的な事業領域の拡大を見据え、他社との協業も含めたアニメ事業の新たな展開を推進。

三つ目は、アニメビジネスの収益基盤の拡充です。

開局以来、当社はアニメコンテンツ、あるいはそのビジネスに力を入れており、高い評価をいただいております。現在、放送収入と製作委員会からの配当収入を合わせて、アニメは総売上の10%超を占める事業へと大きく成長してまいりました。

一方で、国内外のアニメ市場は飛躍的な拡大を続けており、今後も成長が続くと見込まれています。その成長の果実を当社も獲得するために、アニメへの投資も一層拡大し、さまざまな事業を展開するための取組みを推進してまいります。

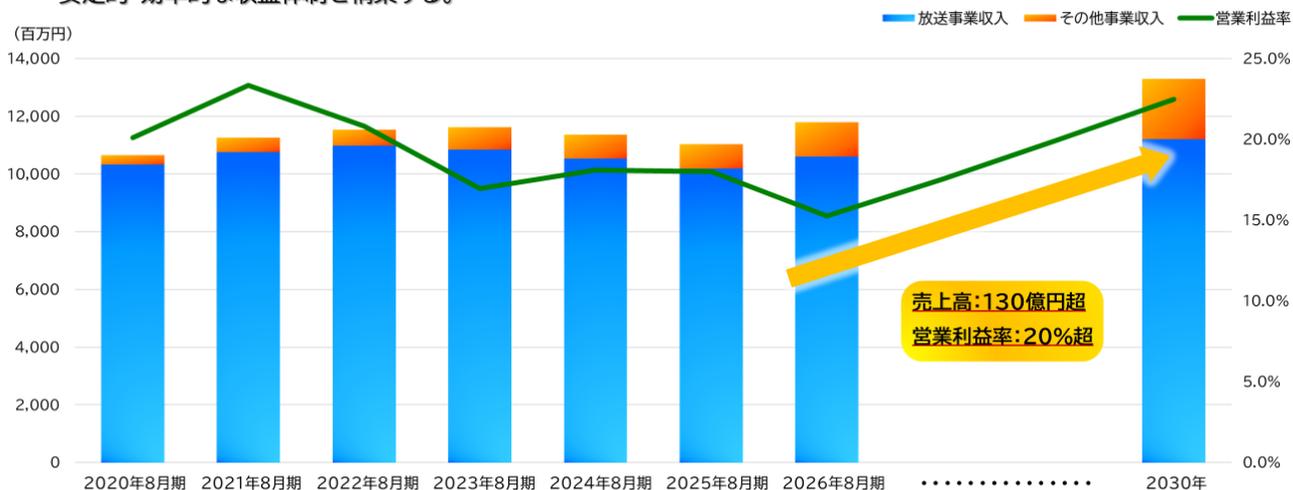
Value

## IV. 企業価値向上のための戦略的投資

新たな領域への投資機会の追求、持続的成長を実現する環境構築

## ● 事業の多角化により収益力を強化

放送を軸としたコンテンツの多角的な展開を促進し、売上高130億円超・営業利益率20%超の達成に向けた、安定的・効率的な収益体制を構築する。



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

25

四つ目が、企業価値向上のための戦略的投資です。

こちらのグラフは、2025年8月期までの当社個別の実績推移と、2026年8月期の計画値、そして2030年に向けての売上高と営業利益率の目標です。

先程説明いたしましたように、コンテンツ IP の獲得を軸とした投資、AI などの先端技術を活用して生産性を上げるための投資、そして人を大切に人育てるための投資、こうした投資を一層強化してまいります。

とりわけ、アニメや IP コンテンツへの投資を拡充していくことで売上の飛躍的な成長を実現し、売上高 130 億円超を目指してまいります。

営業利益率も、かつて到達していた 20% を超える筋肉質な経営体質を目指して、経営を進めてまいります。

Value

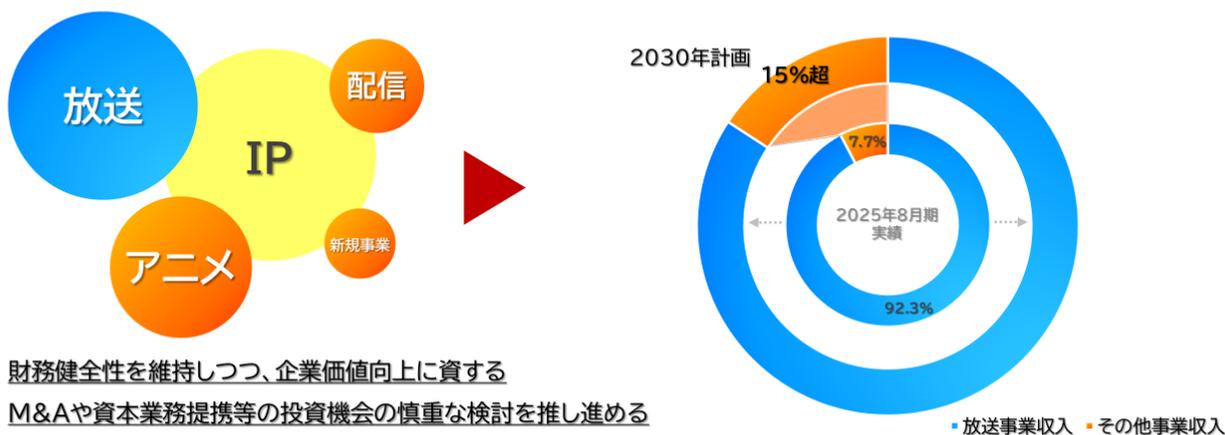
## IV. 企業価値向上のための戦略的投資

新たな領域への投資機会の追求、持続的成長を実現する環境構築

### ● M&Aや資本業務提携等の他社とのアライアンス締結の検討

収益の柱である放送事業を拡大し、アニメや配信をはじめとした成長事業分野や新規事業分野を強化することによる中長期的な企業価値の向上に取り組む

■ 売上高全体に占める放送事業収入・その他事業収入のシェア率



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

26

2025年8月期、売上高全体に占めるその他収入、つまり放送事業以外の収入が占める割合は、およそ8%でした。放送した番組の見直し配信への展開促進や、配信オリジナルコンテンツの制作、番組関連イベントの企画・推進など、いろいろな施策に取り組んだことで、その他収入の売上高に占める割合は大きく伸びてきています。

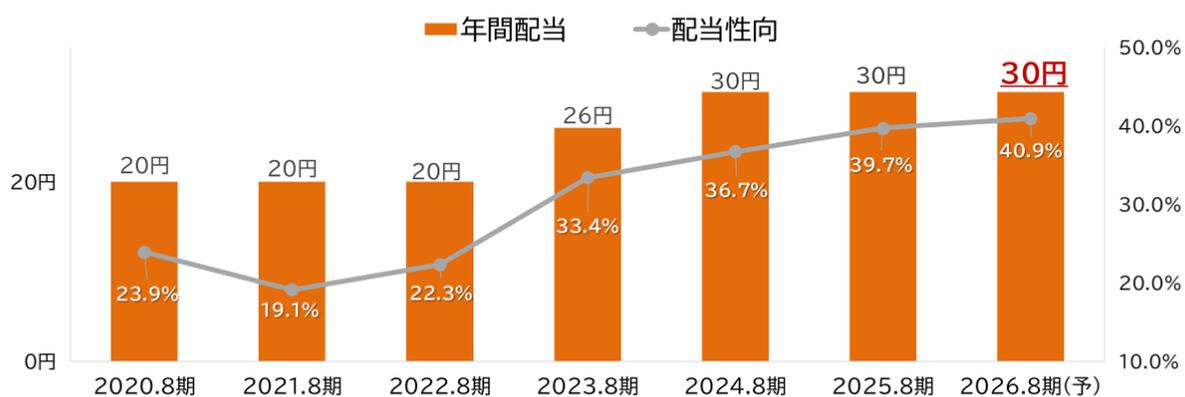
2026年8月期は、これまでの取組みの一層の強化はもちろん、先ほどご説明しました重点施策

「Value4」を推進し、2030年にかけて、配信やアニメ、イベントをはじめとしたその他事業を、売上高全体の15%超を占める大きな柱へと成長させてまいります。

## 2026年8月期は、期末配当金 30円を計画

## 配当方針について

- ・ 企業価値の向上や持続的な発展に向け成長を確保する一方で、株主等ステークホルダーの期待に応えられるよう、経営資源の適切な配分を行い、配当性向40%程度を基準として、株主還元の拡充を図っていく方針です。
- ・ 年1回の期末配当を行うことを基本とします。



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

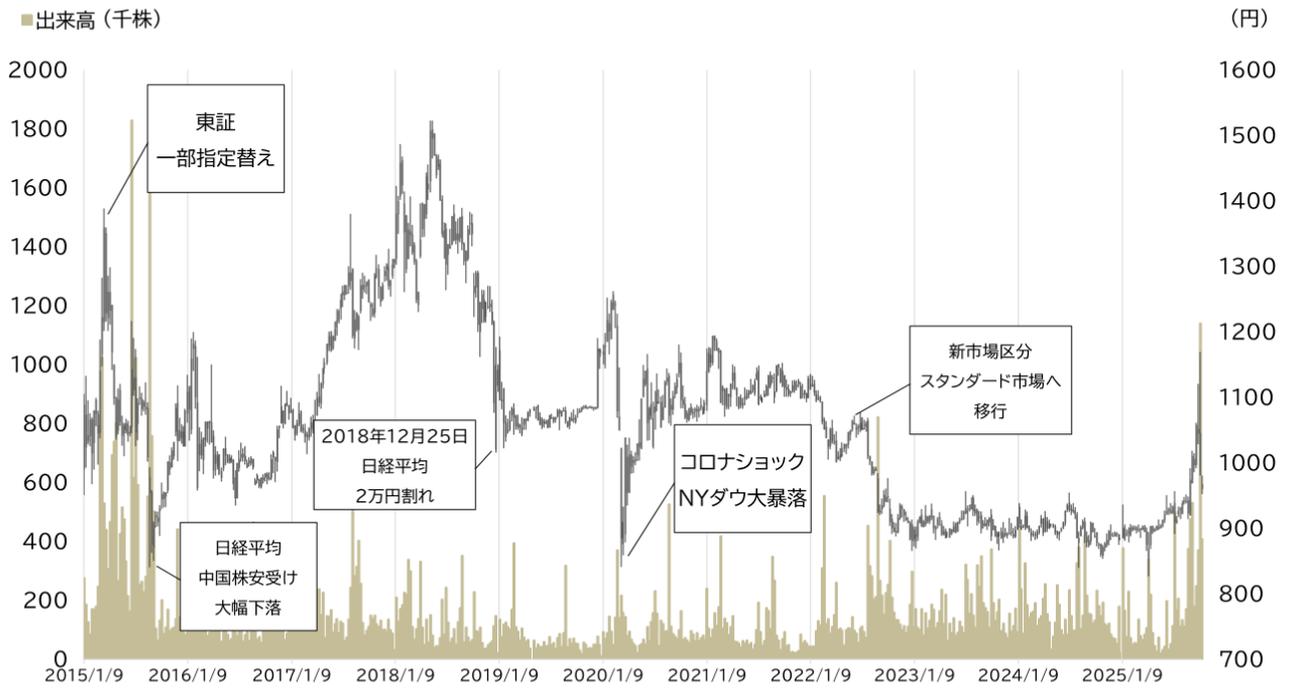
28

配当の状況について説明いたします。

2026年8月期は、期末配当を引き続き30円とする見込みです。

これまでどおり株主還元を重視し、配当性向は40%程度を基準として、株主の皆様の期待に応えられるよう、引き続き株主還元の維持・強化に努めてまいりたいと考えております。

# 株価推移



株価の推移はご覧のとおりです。

当社では、引き続き業績を上げることで企業価値をさらに向上させていきたいと考えております。

# VTR

最後に、当社の代表的な自社制作番組などを映像にまとめました。どうぞご覧ください。

- ❑ 本資料は日本BS放送株式会社(以下、当社)の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- ❑ 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- ❑ また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

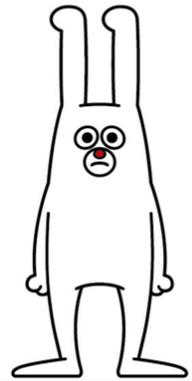
【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

日本BS放送株式会社

経営企画局 経営企画部

TEL 03-3518-1900

URL <https://www.bs11.jp/>



© Nippon BS Broadcasting Corporation.

40

**近藤**：いかがだったでしょうか。今後も多くの視聴者の皆様に愛される良質な番組の制作・提供に努めてまいります。

以上をもちまして、説明セクションは終了いたします。

ご清聴ありがとうございました。